

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2013開催報告

12月6日(金)に、けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム 2013 をステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)にて開催し、けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会(以下、協議会)のPR および研究発表を行いました。

本シンポジウムは、協議会の取り組みや研究成果の報告・広報に加え、企業、大学、産学官連携関係者との交流や情報交換を行い、ICT の研究開発活動について普及・啓発活動を行うことを目的とし、4年ぶりに東京で開催し、86名の参加を得ました。

総務省研究推進室 荻原直彦室長よりご来賓挨拶をいただいた後、「ロボティックサービスの最前線から未来へ」というテーマのもと、ATR、パナソニック、大阪大学からの講師により、大学等における基礎研究から企業における実用化開発まで、関西におけるロボットに関する最新の研究成果の一端について講演をいただきました。

ATR 萩田紀博所長からは、協議会の活動に加え、ロボティックサービスに関するご研究や国内外の動向、今後の研究の方向などについてまとめていただき、高齢化社会における課題の解決にロボットが有効であることを、買い物支援ロボットなどの事例を交えて紹介いただきました。パナソニック 北野幸彦チームリーダーからは、病院内自律搬送ロボットの開発と実用化について講演いただき、病院のニーズや課題を把握することの重要性を強調されました。病院の課題を解決した、サービス産業用ロボットの成功事例として大きな反響がありました。大阪大学 石黒浩教授はご自身そっくりのアンドロイドロボットを開発されており、本人ではなくアンドロイドが講演(過去の講演をもとに事前にプログラムされたものによる再現)を行いました。アンドロイドの研究を通じて人間らしさやアイデンティティ、存在感の起源を明らかにされつつあることを話され、来場者からアンドロイドのリアルさや動きの自然さに未来を感じたなどの声をいただきました。また会場では、協議会の活動をパネル展示とデモで紹介しました。交流会にはアンドロイドも登場し、大阪大学 小川浩平助教に解説をしていただいたり、質問にお答えいただいたりしながら、産学官連携を深めるための情報交換が活発に行われました。

来場者アンケートでは、人間とロボットが共存する未来の社会を感じた、関西の研究成果をもっと知りたいなどの感想をいただきました。



萩田所長(ATR)



北野チームリーダー(パナソニック)



講演中の石黒教授(阪大)のアンドロイド



荻原室長(総務省)



ポスター展示